

自動保管・搬送システム導入

■香港HACTL上屋でEC処理力倍増

香港エアカーゴターミナルズ（HACTL）の物流子会社、香港エアカーゴインダストリーサービス（HACIS）はこのほど、eコマース（EC）フルフィルメントセンターに自動保管・搬送システム「HSCS」を導入したと発表した。同センターは香港国際空港のHACTL上屋「スーパーターミナル1」内にある。商品の保管、取り出し、作業場所への搬送を自動化し、1日当たりの出荷処理能力を従来の2倍に引き上げた。

HACISは1984年設立のHACTL全額出資子会社で、HACTLの航空貨物ターミナル業務を補完する付加価値物流サービスを担う。HACTLがスーパーターミナル1で航空会社の貨物をマスター・エア・ウェイビル

（MAWB）単位で取り扱うのに対し、HACISは輸出入貨物をハウス・エア・ウェイビル（HAWB）単位まで仕分ける。香港域内の集配送や中国本土との保税ロード・フィーダー・サービス（RFS）なども手掛ける。

HACISは2020年、スーパーターミナル1内に「HACIS ECフルフィルメントセンター（HEFC）」を開設した。商品の保管、受注処理、再梱包、簡易組み立てから、フォワーダーや航空会社への転送までを一体的に手掛ける。温度管理が必要な商品に対応する認証施設「HACISクールゾーン」も備える。

HSCSは、高速のトート用スタッカークレーンを備えた自動保管・取り出し設備と無人搬送車（AGV）を連

動させる。保管中の商品を取り出し、受注処理を行う作業場所まで搬送する「グッツ・トゥ・パーソン」方式を採用した。人手による作業を減らし、処理時間の短縮と在庫精度の向上につなげる。

倉庫管理システム（WMS）とも連携し、顧客の基幹業務システムやECプラットフォームとの間でデータをリアルタイムに同期する。受注から出荷までの在庫状況を可視化し、在庫管理の精度を高める。

HACISのリンゴ・チャン・エグゼクティブダイレクターは「ECサプライチェーンでは、スピードや可視性、信頼性への要求が高まっている。HSCSにより、業務の効率と精度を高めながら、より多くの物量を処理できる」とコメントした。